

## 新刊紹介

## 日本の地質

木村敏雄・速水 格・吉田鎮男著  
 東京大学出版会，1993年5月30日発行  
 362ページ，定価8,240円(本体8,000円)

“Geology of Japan (1963)”の初版は，F. Takai, T. Matsumoto & R. Toriyama 編著により小林貞一氏還暦を記念して出版された。第2版は，T. Kimura, I. Hayami & S. Yoshida 著(1991)によって全面改定された。本書は，標題から第2版の日本語訳に相当するように見えるが，英語版が世に出たからわずか2年間に公表された最新資料を吟味・追加し，さらに構造発達史を更新・詳述しているのが特徴である。

本書は，以下のとおりの構成になっている。

### 第1章 序説：日本列島の構造区分と地殻変動ステージの区分

#### 1.1 日本の主な構造区分とその形成史の概略

#### 1.2 日本列島の六つの地殻変動ステージ

### 第2章 層序，火成・変成活動

時代別，オルドビス紀以前，シルル紀およびデボン紀，石炭紀，二疊紀，三疊紀，ジュラ紀，白亜紀，古第三紀，新第三紀，第四紀

### 第3章 日本列島の形成

#### 日本の地殻変動史

#### 日本における過去と現在の島弧

#### 引用文献(45ページ)・索引(10ページ)

本書は，速水および吉田両氏による第2章内の中生代の3項目を除き，他の大部分は木村氏によってまとめられている。第1章序説では，特に秩父縁海(秩父地帯)の時代別構造区分と時代的変遷が明解に論じられており，理解しやすい。本書のねらいの一つは，この章を充実させたことにあろう。

第2章は，時代ごとの各論になっており，序論，分布，層序，地層の特徴・対比，火成活動・広域変

成，古地理の項目が立てられている。堆積相，堆積域，大型化石，微化石，年代測定を解析した重厚な内容によって，古地理などの今日の問題点・解釈をめぐる諸説・仮説が紹介され，構造発達史レビューになっている。第3章では，木村氏が，1977-1985年の間に「日本列島」第1巻，第2巻(上・下)，第3巻(上・中・下)に集大成した内容を踏まえて，日本列島の地質が先カンブリア時代から現在に至るまでの時系列変化として，プレート・テクトニクスの観点から大胆に論じられている。最初の刊行から約15年を経ておびただしい数量のファクト・データが出版されており，これらと諸仮説の展開などを通覧するだけでも，気の遠くなるような作業であったに違いない。

このたび，一卷の総括書として本書が刊行されたことに深い感銘を覚えるとともに，著者の払われたご努力に心から敬意を表したい。将来，日本列島地質構造発達史が一層詳細で具体的な，すなわち時間と長さのスケールの入った三次元の古地理図として集約・提示されるために，さらにこの分野における研究者が育つ上でも，このご労作が大きな一指針を与えることは間違いない。

日本の地質学が，昨今，資源・環境問題などの研究において経済・社会から乖離してきているため，諸学説がフィールドや生産の現場において検証されることがまれになってきている。ある特定の地質・地区を対象に，切り絵・貼り絵的論述が流行しているのは，その反映であろう。本書が，フィールドを重視のうえ偏りのないファクト・データに基づいて論述されており，まことに時機を得た刊行といえる。今後の自然災害の研究や地球環境の変遷解明などの広い分野においても，本書が活用されることを願っている。

(元所員・現鹿島技術研究所：服部 仁)